

令和5年9月吉日

東京都区市町村立中学校長 様
東京都立学校長 様
東京都中学校英語教育研究会幹事 様
各英語科教諭 様

東京都中学校英語教育研究会
会長 平岡 栄一

令和5年度夏季研修をふりかえって

東京都中学校英語教育研究会（都中英研）では、今年度も4つの部会（研究部、事業部、調査部、プロジェクトチーム部）で5回の夏季研修会を実施し、東京都各中学校等から合計434名が参加しました。

各部会では4技能5領域を向上させることで「総合的な英語力の育成」を図るため、様々な実践の紹介、提案、質疑応答、意見交換や対話等が行われ、会場はあふれる熱気で包まれ、このような実践や熱意が東京都中学校の英語教育を推進していることを改めて感じました。

研修の企画・運営に携わった皆様、参加者、講師の皆様には深く感謝を申し上げますとともに各研修会の様子についてお知らせいたします。

【研究部】R5.8.1実施 大田区立志茂田中学校 および 8.4実施 /オンライン

研究部では、8月1日（火）に参集形式で、8月4日（金）にオンライン形式でワークショップを開催しました（参集85名、オンライン133名参加）。8名の研究部員が実践発表し、参加者が生徒の立場になって授業を体験し、意見交換を行いました。中でも、即興で話す力を高める指導の工夫については全国学力調査やESAT-Jとの関連もあり、参加者の関心も高く、より良い指導法を積極的に吸収しようと活発に意見交換がなされました。

（担当副会長 板垣 繁 研究部長 溪内 明）

【事業部】R5.8.21実施 /千代田区立九段中等教育学校

東京都中学校英語教育研究会事業部では、英語発信力の強化を図る校種間の円滑な接続を目指して『小・中・高等学校で一貫した英語教育を実現しよう！！』というテーマでサマールワークショップを開催しました。会場参加者とオンライン参加者を併せて、都内全域及び他県の小・中・高等学校から、約100名の先生方が参加しました。東京都教育庁グローバル人材育成部から東京都の重要施策であるグローバル人材育成事業についてご説明いただいた後に、各校種における指導事例を7人の先生方に発表していただきました。発表内容につ

いて、概要を報告いたします。

東京都小学校外国語教育研究会の先生方からは、聞きたい、話したいという気持ちにさせる言語活動の工夫、ICTを活用した個に応じた指導、卒業生による英語交流会など数多くの実践事例が紹介されました。発表者の地域では、これらの取組を通じて、「聞く力、話す力、対話力が年々高まっている」、「早い段階から様々な表現方法を工夫したり、アドバイスする姿が見られるようになってきた」などの声が中学校の先生方から届いているとのことでした。

中学・高等学校からは、自作絵本を使った受動態の導入例や自作の読みもの教材の紹介、都立高校入試における学力検査問題を活用した技能統合型の活動、読むことの力のうち概要や要点を把握する力を育成する指導等、発表者が実際の日頃の授業について行っている実践について発表がありました。高等学校の現場では、ESAT-Jの導入以来、新入生の音読の音量が大きくなった、英語で話そうとする態度が見られるようになった、という実感があるとのことでした。

また、公益財団法人東京都教育支援機構（以下、TEPRO）の支援により実現した海外の学校とのオンライン交流会の実践報告がありました。国際交流に興味があり、やってみたいけれども、交流先や交流方法が分からないという学校は、TEPROに連絡してみるとよいと思います。

なお、本ワークショップの運営においても、参加者の受付業務や誘導等、TEPROの皆様にご支援いただき大変助かりました。

参加者の皆さんは、生徒が世界で通用する英語力を身に付けるため、小・中・高等学校間の連携を密にしていこう！という気持ちになってお帰りになられたことと思います。

（担当副会長 西貝裕武 事業部長 横山達也）

【調査部】R5.8.23 実施 / 千代田区立九段中等教育学校

調査部は、今年度、コミュニケーションテスト作成と実施・夏期ワークショップの2本立てで活動しています。昨年作成したコミュニケーションテストを7月に部員の所属校で実施。「書くこと」の思判評の採点方法としてルーブリック採点を導入し、夏休み中の部会で採点作業を通して各項目の基準を合わせるようにしました。また、ワークショップでは、玉川大学の工藤洋路教授による「読むこと」の領域でのテストづくりの講演を拝聴後、各参加者に持参いただいたリーディング問題についてグループで検討。検討した問題から各グループ1題を選択し、改善したものを全体発表し、工藤先生より各発表に対して明瞭で具体的なアドバイスを頂きました（参加者54名）。

（担当副会長 大森博 調査部長 荒川高広）

プロジェクトチーム部ではESAT-Jでのパフォーマンスなど即興の場面でも十分なアウトプットができるようにするためには十分な音読指導が必要ではないかと考えています。音読活動はインプットとアウトプットの間にある重要なインテイクの活動として捉え、「スピーキング力」や「リーディング力」等の育成にどのような効果があるかを検証しているところです。8月23日には文教大学阿野幸一先生をお招きし『4技能5領域の力を育成するための音読指導の必要性と指導』のテーマで夏季研修会を実施いたしました。62名の先生方に参加していただき、「音読指導のバリエーションを体験することができ授業に取り入れる際のイメージがつかめた」などの感想を多数いただいております。今後もプロジェクトチーム部では音読指導の研究を通して生徒の英語運用能力を育てていきたいと考えています。

(担当副会長およびプロジェクト調査部長 佐藤順一)

報告は以上です。